

ターを用いた簡易スクリーニング方の有用性。protein mutation (D678N) in a Japanese familial Alzheimer's disease. Hotel Osaka Sun Palace, Orbit Hall, October 5-6,2002

第 21 回日本痴呆学会 大阪 2002 年 10 月 3 日
11)谷口美也子、二宮治明、大野耕策、浦上克哉：ニーマン・ピック C 型モデルマウス脳におけるガングリオシド GM1・GM2 蓄積。
第 21 回日本痴呆学会 大阪 2002 年 10 月 3 日

3) Urakami K: Vascular factors in Alzheimer's disease. 1st French-Japan Alzheimer's disease meeting. Paris October 17, 2002.

12)和田健二、田中稔久、竹島多賀夫、涌谷陽介、浦上克哉、武田雅俊、中島健二：神経栄養因子によるタウ蛋白過剰リン酸化抑制の検討。第 21 回日本痴呆学会 大阪 2002 年 10 月 4 日

13)涌谷陽介、古和久典、楠見公義、和田健二、山形薫、中曾一裕、足立芳樹、竹島多賀夫、浦上克哉、中島健二：アルツハイマー病痴呆におけるメチレンテトラヒドロキシ葉酸還元酵素 (MTRFR) 遺伝子多型の検討。
第 21 回日本痴呆学会 大阪 2002 年 10 月 4 日

14)井上仁、浦上克哉、長谷川伸作、陶山昭彦、飯塚舜介：痴呆の早期発見のためのコンピュータスクリーニングシステムの開発とその評価。第 22 回医療情報学連合大会 2002 年 11 月

国際学会

1) Urakami K, Arai H, Itoh N, Ishiguro K, Oono H, Nakashima K: Biological Diagnostic Markers in Alzheimer's Disease, 12 World Congress of Psychiatry Yokohama, Aug 24-29, 2002.

2) Wakutani Y, Watanabe K, Wada-Isoe, K. Urakami K, Saido TC, Iwatsubo T, and Nakashima K: Novel amyloid Precursor

高齢者の認知機能低下、痴呆症の診断評価から在宅支援を行うためのクリニカルパスの作成および実施

分担研究者 梅垣宏行 名古屋大学大学院医学研究系科老年科学 助手

研究要旨 高齢者の認知機能低下、痴呆症の診断評価から在宅支援を行うためのクリニカルパスを作成し実施した。パスを利用しなかった患者との比較では、在院日数、医療費が少ない傾向が認められた。

A. 研究目的

介護保険の導入により、近年、痴呆患者への関心と理解が高まりつつあると共に、問題点も浮き彫りとなりつつある。こうしたなかで、高齢者の認知機能異常や痴呆症状を短期間で適切に診断するプログラムが求められている。また、退院後の在宅での痴呆患者のおよび介護者の生活の質（QOL）を考えた場合、日常生活上の問題点をもれなく評価し、それに対応する方法を用意することも必要である。

我々は、高齢者の認知機能低下、痴呆症を診断評価するだけでなく、それをもとに退院在宅支援を行うためのクリニカルパスを作成し、その有効性を評価するために以下の研究を行った。

B. 研究方法

名古屋大学附属病院老年科病棟に認知機能低下、痴呆症の診断評価のた

めに入院した患者のうち、クリニカルパスを使用した患者4名（クリニカルパス群）、使用しなかった患者4名（コントロール群）について、在院日数、医療費を比較した。また、クリニカルパスを使用した患者に対してアンケートによって、患者本人、介護者の疾患理解度、入院の満足度、QOLを調査した。

（倫理面への配慮）

研究参加者には、十分な説明のうえ、書面での同意を頂いた。

C. 結果

患者背景を表1に示す。

在院日数は、クリニカルパス群で 15.5 ± 2.3 日、コントロール群で 20.5 ± 6.4 日とクリニカルパス群が短かった。

医療費は、クリニカルパス群で 48750 ± 8958 点、コントロール群で 53750 ± 12971 点であり、これを入院一日あたりに換算するとクリニカルパス群は 3140 ± 307 点/日、コントロール

群は 2693±440 点/日となった。
また、アンケート調査では、疾患の理解度については、患者本人、介護者ともにクリニカルパス群の全員が入院時よりも上がったと答えた。入院への満足度はすべての介護者が「大体満足」から「大変満足」と答えたが、患者本人は「大変満足」、「満足」、「どちらでもない」、無回答にわかれた。

また、病名、予後の情報については、介護者は全員が知りたいと答えたが、患者本人は、意見が分かれた。また、痴呆の病名を告知したいかどうかの質問に対する介護者の答えも、知らせたいと知らせたくないに分かれた。

D. 考察

今回の検討ではまだ、実施数が少なく十分な解析はできないものの、クリニカルパス群で在院日数が短く、医療費が少ないが、1日あたりの医療費は多いことが示された。これは認知機能低下、痴呆症の診断評価がクリニカルパスによってより効率良く短期間で行われたことを示唆するものと考えられる。また、退院時の介護者の満足度は比較的高かったが、患者本人の満足度がさらに上がるよう工夫すべきであると思われる。

また、痴呆の病名告知についてのアンケート結果からは、病名告知につ

いての介護者の意識についてさらなる調査が必要であり、痴呆の病名告知のガイドラインの作成の必要があるものと考えられた。

クリニカルパス群では、在宅生活へのアドバイスや介護プランの見直しを行っており、退院4ヶ月後にアンケート調査を行いつつあり、在宅生活への支援が有効に行われたかどうかについて今後検討する。

E. 結論

クリニカルパスを使用することで、認知機能低下、痴呆症の診断評価が効率良く行われる可能性が示された。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Umegaki H, Ishiwata K, Ogawa O., Ingram DK, Roth GS, Yoshimura J, Oda K, Matsui-Hirai H, Ikari H, Iguchi A, Senda M. In vivo assessment of adenoviral vector-mediated gene expression of dopamine D₂ receptors in the rat striatum by positron emission tomography. *Synapse* 43: 195-200, 2002.

2) Ishiwata K, Ogi N, Hayakawa N, Umegaki H., Nagaoka T, Oda K, Toyama H, Endo K, Tanaka A, Senda M. Positron

emission tomography and ex vivo and in vitro autoradiography studies on dopaminergic D2-like receptor degeneration in quinolinic acid-lesioned rat striatum. *Nuclear Medicine and biology*, 29; 307-316, 2002.

3) Umegaki H, Ushida C, Ikari H, Ogawa O, Nakamura A, Suzuki Y, Endo H, Akatsu H, Yamamoto T, Iguchi A. Plasma Insulin and Glucose Levels in Elderly Female Subjects with Alzheimer's Disease. *Geriatr Gerontol Int*, 2; 75-79, 2002.

4) Zhu W, Umegaki H, Tadashi, Shinkai T, Kurotani S, Suzuki Y, Endo H, Iguchi A. Different glial reaction to hippocampal stab wounds in young adult and aged rats. *J Gerontol*, in press.

5) Umegaki H, Zhu W, Nakamura A, Suzuki Y, Takada M, Endo H, Iguchi A. Involvement of the entorhinal cortex in the stress response to immobilization, but not to insulin-induced hypoglycemia. *J Neuroendo*, 15; 1-5, 2003.

6) Umegaki H, Ando F, Shimokata H, Yamamoto S, Nakamura A, Endo H, Kuzuya M, Iguchi A. Identification of factors associated with long hospital stay in Japanese geriatric ward. *Geriatr*

Gerontol Int. in press

7) Kuzuya M, Suzuki Y, Asai T, Koike T, Kanda S, Nakamura A, Satake S, Umegaki H, Iguchi A. Atorvastatin, HMG-CoA reductase inhibitor, reduces bone resorption in the elderly. *J Am Ger Soc*, 2003 in press.

8) 梅垣宏行、野村秀樹、中村了、安藤富士子、下方浩史、山本さやか、葛谷雅文、井口昭久：大学病院老年科病棟における入院時総合機能評価と退院先との関係の検討 *日老医誌* 2002; 39(1) 75-82

9) 児玉充央、梅垣宏行、茂木七香、井口昭久、武田章敬：進行性の痴呆症状を呈した高齢者サルコイドーシスの一例 *日老医誌* 2002; 39(6) 648-653.

2. 学会発表

1) 梅垣宏行；ワークショップ：高齢糖尿病の管理のあり方，認知機能低下予防から考える。第45回日本糖尿病学会年次学術集会、2002年、東京

2) 梅垣宏行、大西丈二、鈴木裕介、中村了、水野裕、井口昭久、遠藤英俊

痴呆介護における介護負担感の検討。
第44回日本老年医学会学術集会、
2002年、東京

3) 鈴木裕介、山本さやか、梅垣宏
行、中村了、茂木七香、井口昭久
アルツハイマー型痴呆患者における
嗅覚機能に関する検討。第44回日
本老年医学会学術集会、2002年、
東京

4) 浅井俊旦、葛谷雅文、神田茂、
鈴木裕介、梅垣宏行、井口昭久
Atrovastatin の骨代謝への影響。第4
4回日本老年医学会学術集会、20
02年、東京

5) 鈴木裕介、梅垣宏行、山本さや
か、茂木七香、井口昭久学習記憶に
対する臭覚刺激の影響。第17回老
年精神学会、2002

6) 山本さやか、梅垣宏行、鈴木裕
介、茂木七香、井口昭久
時計描画テスト：採点法とその有効
性について一名大老年科物忘れチェ
ック外来における検討。第13回日
本老年医学会東海地方会 2002
年

7) 加藤直子、立花清美、若園尚美、

梅垣宏行、鈴木裕介、中村了、井口
昭久、遠藤英俊

痴呆患者のクリティカルパスにおけ
るチームカンファレンスの役割。第
13回日本老年医学会東海地方会
2002年

8) 中村了、梅垣宏行、鈴木裕介、
山本さやか、大西丈二、茂木七香、
井口昭久、遠藤英俊、加藤直子、立
花清美、若園尚美

老年医学的視点による認知機能障害
評価、マネジメント用クリニカルパ
ス作成の試み。第13回日本老年医
学会東海地方 2002年

9) 鈴木裕介、朱えんじ、梅垣宏行、
山本さやか、茂木七香、井口昭久
ラットの記憶機能に与える匂い刺激
の影響—加齢による変化—第13回
日本老年医学会東海地方会 200
2年

10) 児玉充央、梅垣宏行、茂木七
香、井口昭久、武田章敬
痴呆症状にステロイドが著効した高
齢者サルコイドーシスの一例。第1
3回日本老年医学会東海地方 20
02年

H. 知的財産権の出願、登録状況
なし

図 1

	臨床群	コントロール群
痴呆性疾患	アルツハイマー型老年痴呆3人 び慢性レビー小体病1人	アルツハイマー型老年痴呆2人 脊髄小脳変性症1人 その他1人
MMSE	17.5±8.4	19.8±9.4
GDS-15	5.5±4.8	6.0±2.6

Ⅲ. 参考文献ならびに研究成果

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
櫻井 孝 横野浩一	高齢者の包括医療 と栄養	日本病態栄 養学会編	病態栄養ガ イドブック	メディカ ルレビュー ー社		2002	104-108

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
遠藤英俊	新しい回想法	Japanese Journal of Moleculae Psychiatry	3	71-76	2003
山嶋哲盛、難波 吉雄、他	「アーバンス (RBANS)」 神経心理テストによる高次 脳機能評価	脳神経	54	463-471	2002
Kageyama A, Namba Y. et. al.	Distinct role of adiposity and insulin resistance in glucose intolerance: studies in ventromedial hypothalamic- lesioned obese rat	Metabolism	51	716-723	2002
櫻井 孝	高齢者糖尿病の自立障害の 原因とその管理	内分泌・糖尿病科	14	563-570	2002
櫻井 孝	神戸大学病院での高齢 者総合機能評価と地域 ネットワーク	人間科学研究	9	117-123	2002
Sakurai Yang Takata Yokono K	T, Synaptic adaptation to repeated B, hypoglycemia depends on the T, utilization of monocarboxylates in guinea pig hippocampal slices.	Diabetes	51	430-438	2002
Yang Sakurai Takata Yokono K	B, Effects of lactate/pyruvate on T, synaptic plasticity in the T, hippocampal dentate gyrus.	Neuroscience Research			in press
櫻井 孝	高齢者糖尿病と認知機能障 害	Diabetes Frontier	13	337-340	2002

浦上克哉, 谷口美也子, 涌谷陽介, 中島健二	アルツハイマー病研究の展開	現代医療	34	97-102	2002
人見裕江, 浦上克哉, 他	地域で暮らしている痴呆性高齢者の生活の満足度	米子医誌	53	79-88	2002
人見裕江, 浦上克哉, 他	在宅痴呆性高齢者の介護負担感と介護保険サービス利用に関する研究	米子医誌	53	89-97	2002
浦上克哉	アルツハイマー病—診断のポイントと薬物療法—	日本総合診療医学会誌	7	37	2002
Shoji M, Urakami K, et. al.	Cerebrospinal fluid tau in dementia disorders: a large scale multicenter study by a Japanese study group.	Neurobiol Aging	23	363-370	2002
浦上克哉, 谷口美也子, 他	アルツハイマー病における塩酸ドネペジルの有効性とアセチルコリンレセプター遺伝子多型との関連の検討	内科専門医会誌	14	424-428	2002
浦上克哉, 谷口美也子, 他	アルツハイマー型痴呆の遺伝子多型と簡易スクリーニング法	老年精神医学雑誌	13	5-10	2002
浦上克哉	アルツハイマー病の遺伝子多型と簡易スクリーニング法	Clinic Magazine	6	50	2002
浦上克哉, 涌谷陽介, 中島健二	アルツハイマー病の分子医学	Molecular Medicine	39(5)	556-561	2002
浦上克哉, 谷口美也子, 他	アルツハイマー病の遺伝素因の解析	クリニカ	29	53-57	2002
笠木健, 浦上克哉, 他	乳果オリゴ糖配合即席みそが男子・女子学生の便通および腸内菌叢に及ぼす影響	米子医誌	53(2)	151-161	2002
和田健二, 涌谷陽介, 浦上克哉, 竹島多賀夫, 中島健二	記銘力障害で発症し一側優位の失行が顕著化した進行性痴呆症の一例	分子精神医学	2	85-86	2002

古和久典、浦上克哉、他	痴呆症患者におけるメチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素遺伝子多型の検討	分子精神医学	2	87-88	2002
浦上克哉	アルツハイマー型痴呆患者の機能維持に関するドネペジル1年間によるプラセボ対象比較試験	Worldwide Evidence with Donepezil	4	1-6	2002
浦上克哉	日常診断に役立つアルツハイマー病の簡易診断法と治療	ふしみ医報	506(11)	106	2002
浦上克哉	日常診断に役立つアルツハイマー病の簡易診断法と治療	徳山医師会報	482	13	2002
熊坂一成、浦上克哉、他	第24回認定内科専門医会中国支部教育セミナーのまとめ	内科専門医会誌	14(3)		2002
Wakutan Y, Urakami K. et. al.	Genetic analysis of vascular factors in Alzheimer's disease	Ann N Acad Sci	977	232-238	2002
浦上克哉、谷口美也子、他	アルツハイマー病の生化学的検査—タウ蛋白—	診断と治療	91	269-272	2003
浦上克哉、谷口美也子、他	アルツハイマー病へのアプローチ—内科的治療	J Clin Rehabilitation	12	116-119	2003
Umegaki H, Ishiwata K. et. al.	In vivo assessment of adenoviral vector-mediated gene expression of dopamine D ₂ receptors in the rat striatum by positron emission tomography.	Synapse	43	195-200	2002
Ishiwata K, Umegaki H. et. al.	Positron emission tomography and ex vivo and in vitro autoradiography studies on dopamin D ₂ -like receptor degeneration in quinolinic acid-lesioned rat striatum.	Nuclear Medicine and biology	29	307-316	2002
Umegaki H, Ushida C. et. al.	Plasma Insulin and Glucose Levels in Elderly Female Subjects with Alzheimer's Disease.	Geriatr Gerontol Int	2	75-79	2002

Zhu W, Umegaki H, Endo H. et. al.	Different glial reaction to hippocampal stab wounds in young adult and aged rats.	J Gerontol	58(2)	117-122	2003
Umegaki H, Zhu W. et. al.	Involvement of the entorhinal cortex in the stress response to immobilization, but not to insulin-induced hypoglycemia.	J Neuroendo	15	1-5	2003
Umegaki H, Ando F. et. al.	Identification of factors associated with long hospital stay in Japanese geriatric ward.	Geriatr Gerintol Int.			in press
Kuzuya M, Umegaki H. et. al.	Atorvastatin, HMG-CoA reductase inhibitor, reduces bone resorption in the elderly.	Am Ger Soc			in press
梅垣宏行、野村秀樹、他	大学病院老年科病棟における入院時総合機能評価と退院先との関係の検討	日老医誌	39(1)	75-82	2002
児玉充央、梅垣宏行、茂木七香、井口昭久、武田章敬	進行性の痴呆症状を呈した高齢者サルコイドーシスの一例	日老医誌	39(6)	648-653	2002
大西丈二、梅垣宏行、遠藤英俊、井口昭久	グループホームにおける痴呆性高齢者の問題行動と対応の困難さについての検討	日本老年精神医学会誌			印刷中

20020569

以降P47-P260は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので
P43-P46「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください